

総合科学技術会議
専門調査会討議資料

宇宙開発委員会の立場を踏まえて

平成13年2月21日

総合科学技術会議専門調査会

専門委員 井口雅一

1. 宇宙開発委員会の役割

総合科学技術会議の総合戦略を受けて実務を行う

○基本計画の議決

○プロジェクト評価

○安全審査

○事故原因調査

部
会
構
成

○計画・評価部会

○利用部会

○安全部会

○調査部会

2. 宇宙開発の基本方針

○理念； 国、国民、人類の繁栄に貢献

○目的 ・国、国民の安全

・国民生活の向上、産業競争力強化

・知的資産の拡大

3. 必須の開発課題

基盤技術の強化

- 基礎データの充実

- 宇宙開発のための生産技術

 - 一品生産一発勝負のための信頼性工学、品質管理

H-II Aロケットの完成・運用

- 宇宙への独自のアクセス手段を持つ

 - 国の安全、情報収集衛星の打ち上げ

- 国の威信

 - 日本の科学技術レベルを象徴

- ロケット打ち上げ事業の定常化

4. 先導的基幹プログラム(仮称)ー 官民協働開発

現状

改善

1) 総花的な開発

- ・重点化
ロケット・衛星の効率的開発

2) 利用者不在の開発

- ・利用者からの開発計画
需要→提供サービス→利用システム
→利用技術開発→技術開発

3) 関係者の連携弱体

- ・産官(公)学の連携
- ・官民協働開発
- ・技術情報の共有

4.1 先導的基幹プログラム – 産業化を目指す

- 技術開発から利用技術開発、利用システム整備、市場開拓までの一体総合計画
- 実用化への短期段階計画
3～5年で段階的成果を出す。
- 官民の協働開発
利用、市場開拓は民間主導
- 地球観測衛星と通信衛星との有機的連携
多目的衛星、フォーメーションフライトなどの活用

5. 産業化方策

連続定常生産の実現・維持； アンカーテナンシー

○外国の軍需に代わる官需・民需の開拓

- ・利用官庁との連携推進、開発組織の営業力強化
- ・利用産業育成政策； 税制優遇、融資制度

○利用の拡大を目指す実利用計画の充実

- ・複数の編隊衛星による望む場所、時刻、分解能での情報提供
- ・開発から実利用まで一体計画による連続・定常需要

宇宙技術の輸出入問題； スーパー301条

資源配分

○国の責務としての開発； A%

輸送システム開発、宇宙科学、国際協力など
基盤整備、未来計画、人材育成、運営経費等

○産業拡大への投資； B%

先導的基幹プログラム

6. 国際協力

受身の協力から計画的協力へ

- 米、露、欧(ESA等)との協力
 - ・ESAとの連携推進
- アジア・太平洋地域でのリーダーシップ
 - ・アジア・太平洋地域宇宙開発機構
 - ・地球環境観測、防災・災害対策
 - ・人材育成
- 宇宙利用技術の先導的開発
 - ・地球観測技術
 - ・データ・アーカイブ技術

7. 将来計画

再利用輸送システム調査研究